



沖縄県家畜衛生試験場

Okinawa Prefectural Institute of Animal Health (OIAH)



平成29年5月新庁舎完成・7月業務開始

〒904-2241 沖縄県うるま市兼箇段3-1
3-1 Kanekadan, Uruma City,
Okinawa, Japan,

TEL : 098-979-0260
FAX : 098-973-1977

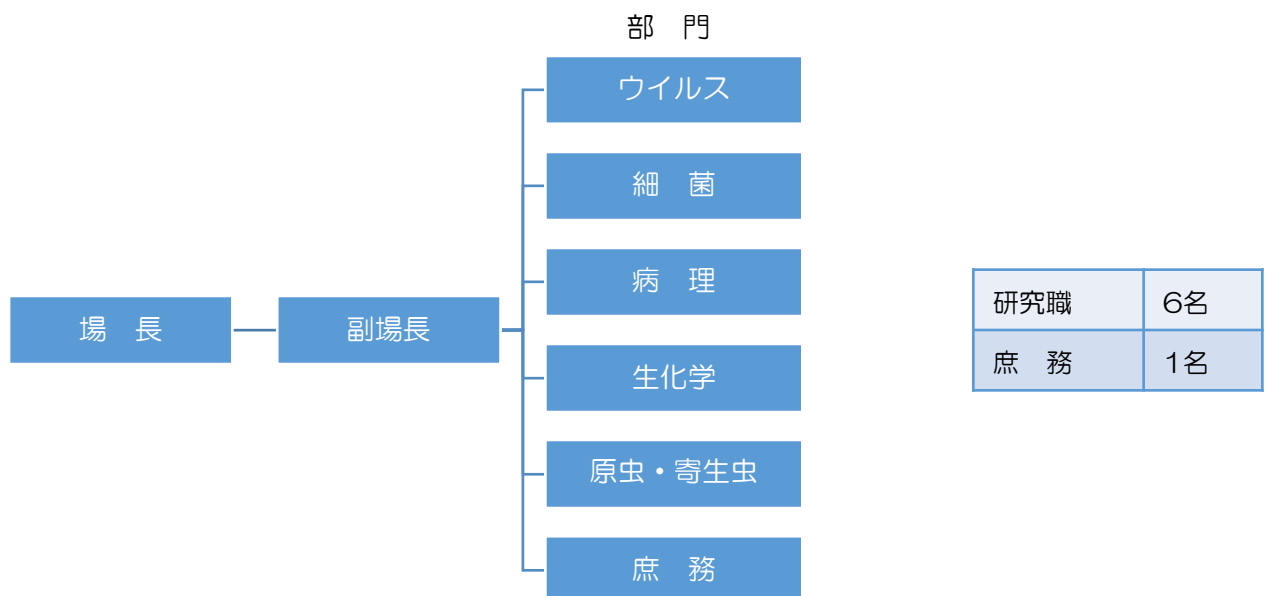
使命と沿革

国内唯一の亜熱帯地域に属する沖縄県では、他県とは家畜疾病の様相が大きく異なっています。

本場の使命は、県民生活に安全な畜産物を供給するための家畜衛生対策技術の向上、また、家畜・家きんを中心に動物全般の保健衛生の向上に寄与することです。このため、病気の診断（病性鑑定）、人獣共通感染症を含めた疾病予防技術の開発・研究、畜産振興のための各種衛生対策事業を実施し、これらを通して得た情報や技術の普及・啓蒙を行っています。

大正11年（1922年）	沖縄県立獣疫血清所として、島尻郡真和志村立字安里に設立 豚コレラ、豚丹毒血清および予防液の製造、家畜疾病の調査研究
昭和20年（1945年）	太平洋戦争により焼失、機能停止により機関消滅
昭和25年（1950年）	真和志村字古波蔵112番地に家畜検診所として発足 その後、琉球家畜衛生研究所として許可される
昭和29年（1954年）	本格的な生物学的製剤の製造開始、琉球獣疫血清製造所に改称
昭和36年（1961年）	琉球家畜衛生試験場へ名称変更 庶務課、調査研究室、検定室、製造室の1課・3室となる
昭和47年（1972年）	日本復帰により沖縄県家畜衛生試験場（現名称）に改称
昭和49年（1974年）	生物学的製剤の製造中止
昭和53年（1978年）	中央家畜保健衛生所から病性鑑定業務移管
平成 7年（1995年）	行政組織改正、1課・3室制廃止
平成29年（2017年）	5月にうるま市兼箇段3-1に移転、7月より現在地にて業務開始

組 織



ウイルス

ウイルス性疾病の発病機構、診断・予防に関する調査研究

豚熱、鳥インフルエンザ、アルボウイルス（節足動物媒介性ウイルス）など動物のウイルス性疾病についての診断、サーベイランス、疫学解析などの調査研究を実施



四肢の屈曲、脊柱湾曲を呈した
ピートンウイルスの関与を疑う異常産子牛

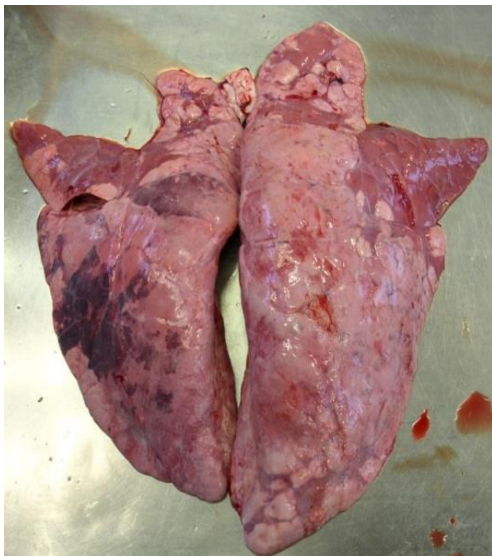


高病原性鳥インフルエンザウイルス
分離検査

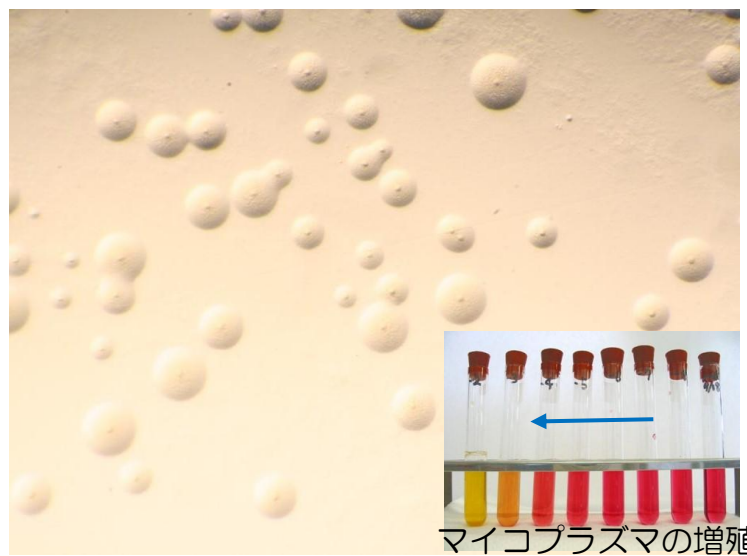
細菌

細菌性疾病の発病機構、診断・予防に関する調査研究

動物の細菌性疾病やマイコプラズマ症、細菌性人獣共通感染症の診断と調査研究を実施



マイコプラズマに感染した肺（豚）



マイコプラズマのコロニー

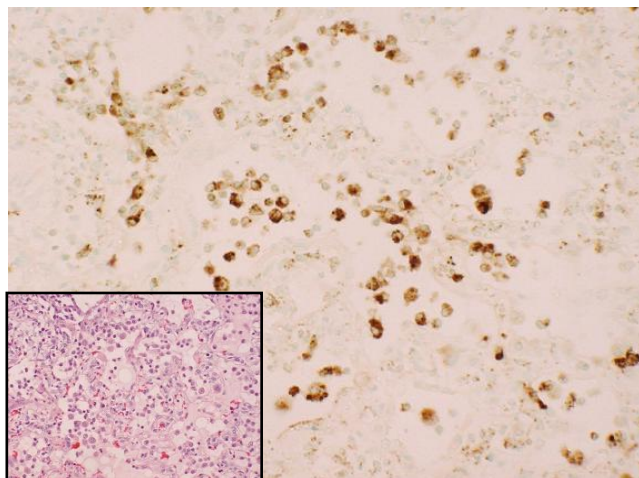
病 理

感染症と非感染症の発病機構，診断・予防に関する調査研究

家畜疾病全般について病理組織学的および免疫組織学的手法による診断と調査研究を実施



自動染色装置および標本作製機器



肺(豚)のPCV2抗原 (×200、免疫染色)
枠内：同部位HE標本

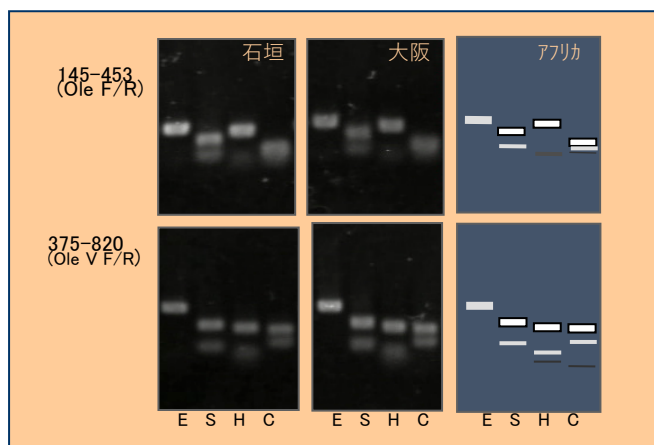
生化学

代謝障害、欠乏症・過剰症並びに飼料中の有害物質による中毒等の診断・予防に関する調査研究

家畜の健康維持及び生産病等の調査研究、有害物質等の検査及び防除に関する調査研究を実施



県内死亡牛のBSE検査
(ELISA法)

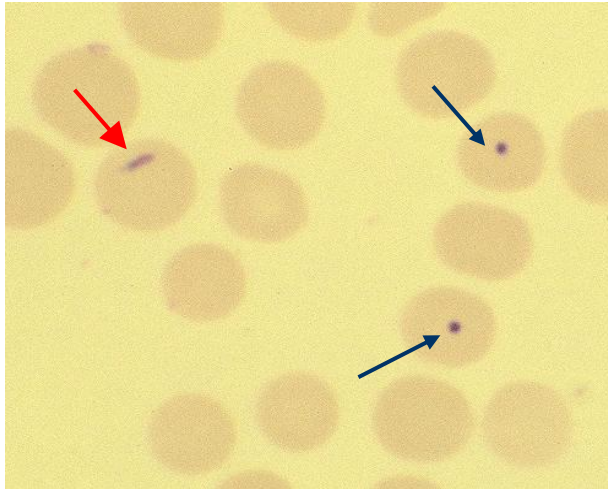


国内、外国産キョウチクトウの
PCR-RFLP

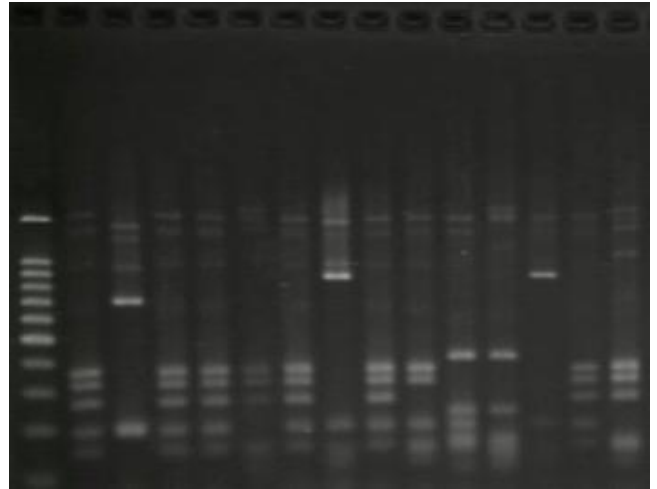
原虫・寄生虫

原虫性・寄生虫性疾患の診断・予防に関する調査研究

牧野に生息し牛に寄生するマダニを介した疾病や赤血球に寄生する住血微生物等について、遺伝子検査や遺伝子解析等による病性鑑定を実施し、感染防除に関する調査研究を実施



Theileria orientalis (赤矢印) と *Anaplasma centrale* の混合感染



PCR-RFLP法によるDNA断片相違の識別



効率的駆除法により法定伝染病を媒介するオウシマダニを清浄化（1999年）



世界的にも殆ど例のないオウシマダニ撲滅達成に際し授与された農林水産省からの感謝状



フタトゲチマダニの発生消長調査



検査棟(庁舎北東側)

アクセス



那覇空港から約40km（車で約50分）
 沖縄北インターからおよそ2km（車で約5分）